

# サウジアラビア

Kingdom of Saudi Arabia

	2015年	2016年	2017年
①人口：3,255万人（2017年）			
②面積：214万9,700km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：2万1,057米ドル （2017年）			
④実質GDP成長率（%）	4.1	1.7	△0.7
⑤消費者物価上昇率（%）	1.3	2.0	△0.9
⑥失業率（%）	11.5	12.3	12.8
⑦貿易収支（10億サウジ・リヤル）	166.0	209.1	381.5
⑧経常収支（10億サウジ・リヤル）	△212.7	△89.4	57.1
⑨外貨準備高 （10億サウジ・リヤル）	2,311.6	2,009.2	1,861.6
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	n.a.	n.a.	n.a.
⑪為替レート（1米ドルにつき、 サウジ・リヤル、期中平均）	3.75	3.75	3.75

〔注〕 2017年は暫定値。⑤：2007年=100、⑥：15歳以上のサウジアラビア人、2017年：第4四半期、⑦：国際収支ベース（財のみ）  
〔出所〕 ①④⑥：経済企画省総合統計庁、②：世界銀行、⑤⑩：IMF、③⑦⑧⑨：サウジアラビア通貨庁（SAMA）

2017年のサウジアラビア経済は、石油部門のマイナス成長に引きずられ、実質GDP成長率は全体でマイナス0.7%となった。貿易は下半期の油価上昇が影響し、輸出額が伸びた一方で、前年に続き輸入額が減少したことから、貿易黒字幅が拡大した。対内直接投資は大型案件への投資が一巡したことや国内経済の鈍化に伴い、前年を大きく割り込んだ。

## 石油部門の減速で8年ぶりのマイナス成長

2017年のサウジアラビア経済は、下半期に油価の上昇傾向が見られたものの、2017年の平均油価（アラブ・ライト）が1バレル当たり53ドルという低水準にとどまった影響もあり、同国経済の主軸を成す石油部門の実質GDP成長率がマイナス3.0%と、2009年以来8年ぶりのマイナス成長となった。これが経済成長全体を押し下げ、全体でもマイナス0.7%の成長率にとどまった。

成長率を部門別にみると、石油部門がマイナス3.0%、非石油部門は1.0%、政府部門の1.7%に対して民間部門が0.7%と、前年に続きいずれも低い伸びとなった。他方、2017年の名目GDP成長率は6.5%増で、これを需要項目別にみると、金額の大きい個人消費（民間最終消費支出）が微増ながら2.7%増となったことに加え、財貨・サービスの輸出が19.1%増と貢献した。

2017年の財政収支は、歳入6,915億サウジ・リヤル（以下、リヤル）、歳出9,300億リヤルと4年連続での財政赤

字となった。特に光熱水費の値上げに伴うサウジ人家計への手当支出などの影響で、歳出額が予算編成時よりも大きくなり、赤字幅が増加した。

2018年の政府予算は、歳入7,830億リヤル（前年比13.1%増）、歳出9,780億リヤル（9.9%増）と4年連続の赤字予算編成となり、過去最高の歳出規模となった。OPEC加盟国の減産合意を受けた原油価格上昇への期待、および2018年1月からのVAT（5%）の導入実現により、歳入増を見込んでいる。

## 主要輸出品目の伸びで輸出額は増加

2017年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比20.8%増の8,318億8,100万リヤル、輸入が4.0%減の5,044億4,700万リヤルとなり、貿易黒字は3,274億3,400万リヤルと前年から倍増した。

輸出を商品別にみると、最大シェアの鉱物資源・同製品が6,402億5,200万リヤル（構成比77.0%）と、前年比25.0%増となったが、これは油価が低迷していた2016年と比較して、年間平均油価が27.3%上昇したことに起因している。プラスチック・ゴム・同製品、および化学製品もそれぞれ前年比15.8%増、6.3%増と、サウジアラビアの主要輸出品目でいずれも輸出額に伸びが見られた。

他方で輸入は、前年比4.0%減の5,044億4,700万リヤルとなった。特に構成比23.9%を占める機械・電気製品・同部品、および構成比15.7%を占める車両・航空機・船舶等輸送機器がそれ

表1 サウジアラビアの需要項目別名目GDP成長率

（単位：%）

	2016年	2017年				
		Q1	Q2	Q3	Q4	
名目GDP成長率	△1.4	6.5	9.8	3.6	6.1	6.7
民間最終消費支出	4.7	2.7	1.1	2.8	2.9	4.1
政府最終消費支出	△15.1	1.0	△14.1	△5.8	10.0	12.7
国内総固定資本形成	△14.0	△5.1	△5.5	△10.6	△6.2	0.8
財貨・サービスの輸出	△7.9	19.1	41.1	6.8	12.1	20.5
財貨・サービスの輸入	△21.9	△1.0	△12.0	3.2	3.6	2.3

〔注〕 四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕 経済企画省総合統計庁

表2 サウジアラビアの主要品目別輸出入&lt;通関ベース&gt;

(単位：100万サウジ・リヤル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2016年 金額	2017年 金額	2017年 構成比	2017年 伸び率	2016年 金額	2017年 金額	2017年 構成比	2017年 伸び率	
鉱物資源・同製品	512,264	640,252	77.0	25.0	機械類・電気機器・同部品	129,334	120,522	23.9	△6.8
プラスチック・ゴム・同製品	55,999	64,853	7.8	15.8	車両・航空機・船舶等輸送機器	93,925	79,397	15.7	△15.5
化学製品	50,410	53,566	6.4	6.3	化学製品	48,312	50,157	9.9	3.8
車両・航空機・船舶等輸送機器	15,772	17,792	2.1	12.8	卑金属・同製品	47,411	43,449	8.6	△8.4
卑金属・同製品	14,155	16,156	1.9	14.1	野菜類	30,444	31,450	6.2	3.3
機械類・電気機器・同部品	10,449	10,396	1.3	△0.5	食料品・飲料・酢・たばこ類	30,843	28,090	5.6	△8.9
生きた動物・動物性生産品	6,032	6,313	0.8	4.7	合計(その他含む)	525,636	504,447	100.0	△4.0
食料品・飲料・酢・たばこ類	5,924	5,594	0.7	△5.6					
合計(その他含む)	688,423	831,881	100.0	20.8					

〔出所〕経済企画省総合統計庁

表3 サウジアラビアの主要国別輸出入&lt;通関ベース&gt;

(単位：100万サウジ・リヤル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2016年 金額	2017年 金額	2017年 構成比	2017年 伸び率	2016年 金額	2017年 金額	2017年 構成比	2017年 伸び率	
	日本	72,342	100,382	12.1	38.8	中国	75,309	76,971	15.3
中国	79,916	97,354	11.7	21.8	米国	77,728	68,087	13.5	△12.4
韓国	57,432	74,027	8.9	28.9	UAE	28,616	32,831	6.5	14.7
インド	63,880	73,801	8.9	15.5	ドイツ	34,331	29,497	5.9	△14.1
米国	66,128	68,867	8.3	4.1	フランス	18,507	21,853	4.3	18.1
合計(その他含む)	688,423	831,881	100.0	20.8	合計(その他含む)	525,636	504,447	100.0	△4.0

〔出所〕経済企画省総合統計庁

ぞれ前年比6.8%減、15.5%減となったことが影響した。

サウジアラビアからの輸出を国別にみると、原油の輸入量が増加した日本が1位で1,003億8,200万リヤル（前年比38.8%増）の大幅増となり、前年1位だった中国は2位の973億5,400万リヤル（21.8%増）となった。3位が韓国で740億2,700万リヤル（28.9%増）、4位がインドで738億100万リヤル（15.5%増）、5位が米国で688億6,700万リヤル（4.1%増）となった。いずれの国向けも最大の輸出品目が原油であるところ、輸出量については前年からほぼ横ばいであるの対し、油価が上昇したことが金額の伸びにつながった。

輸入では、中国が前年比2.2%増の769億7,100万リヤルで、前年に続いて輸入相手国1位となった。2位の米国は主要品目の航空機・同部品、乗用車、ガスタービンがいずれも減少し、680億8,700万リヤル（12.4%減）となった。4位のドイツもコック・弁、特殊自動車、トラックの減少で294億9,700万リヤルの14.1%減となった。フランスは航空機の輸出が増加したことにより、前年5位であった日本を抜いて、今年5位の218億5,300万リヤル（18.1%増）となった。日本は26.1%減の205億6,900万リヤルで6位となった。

## ■大型案件への投資が一巡し対内投資は大幅減

2017年の対内直接投資額は前年から80.9%減と大きく落ち込み、53億3,000万リヤル（国際収支ベース、ネット、フ

ロー）であった。大型案件となる石油・石化プロジェクトへの投資が一巡したこと、国内経済の鈍化に伴い投資機会が減ったことが主因と見られる。また、政府は2016年以来、産業多角化をめざす国家長期戦略「サウジアラビア・ビジョン2030」の下で外国企業による国内投資の促進を推し進めているが、失業率改善に向けたサウジ人雇用促進策「サウダイゼーション政策」の厳格化に伴い、ホワイトカラーを含む外国人への査証発行遅延などが見られ、これらが対外的には投資リスクと映った可能性もある。

一方、「ビジョン2030」の軸を担うムハンマド・ビン・サルマン皇太子が、2018年3月から4月にかけて英国、米国、フランス、スペインを歴訪した際に多数の覚書が締結されており、2018年以降これらの案件が実際の対内直接投資額に現れると見られる。主な事例としては、国営石油会社サウジ・アラムコと仏トタルが、ジュベイルでの石油精製施設SATORPに隣接する90億ドル規模の石化プラント建設で合意したほか、サウジアラビアの関心が高いヘルスケア分野では、英アストラゼネカとサウジアラビアの医薬品製造・販売大手SPIMACOが国内での8,000万ドル規模の医薬品販拡事業に合意した。

また、2017年以降は、サウジアラビアの政府系投資ファンドである公共投資基金（PIF）自らが事業会社を相次いで設立し、外資と共同事業を進めている。PIF傘下のエンターテインメント事業会社DIECと米系企業AMCが2018年4月に開始した映画館運営事業がその一例であり、娯楽以外の分野がこれに続く可能性もある。

表4 日本の対サウジアラビア主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2016年	2017年				2016年	2017年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
輸送用機器	2,636	1,880	50.4	△28.7	鉱物性燃料	18,856	26,693	96.4	41.6
自動車	2,407	1,694	45.4	△29.6	原油及び粗油	17,984	25,562	92.3	42.1
乗用車	1,724	1,294	34.7	△24.9	化学製品	361	506	1.8	40.2
バス・トラック	667	399	10.7	△40.2	有機化合物	259	360	1.3	39.0
自動車の部分品	220	176	4.7	△20.0	原料別製品	204	347	1.3	70.1
一般機械	735	511	13.7	△30.5	非鉄金属	200	346	1.3	73.0
原動機	109	75	2.0	△31.2	合計 (その他含む)	19,566	27,698	100.0	41.6
ポンプ・遠心分離機	243	205	5.5	△15.6					
荷役機械	80	61	1.6	△23.8					
加熱用・冷却用機器	68	24	0.6	△64.7					
原料別製品	980	804	21.5	△18.0					
鉄鋼	398	400	10.7	0.5					
ゴム製品	234	186	5.0	△20.5					
電気機器	287	182	4.9	△36.6					
合計 (その他含む)	5,001	3,732	100.0	△25.4					

[出所] 財務省「貿易統計」(通関ベース)をドル換算

対外投資では、2018年4月、サウジ・アラムコとインド企業のコンソーシアムRRPCLが、インド西岸ラトナギリに440億ドル規模の石油精製・石化プラントを建設することに合意した。

## ■油価の上昇で日本の輸入増、輸出は引き続き減少

日本の「貿易統計(通関ベース)」をドル換算すると、輸出額は37億3,200万ドル(前年比25.4%減)と2年連続で、景気が低迷するサウジアラビアの経済情勢もあり、主要全品目にわたって大きく減少した。特に輸出の半分を占める輸送用機器が28.7%減(18億8,000万ドル)となった影響が大きかった。中でも、バス・トラックの落ち込みが40.2%減と大きかった。その他、一般機械も30.5%減(5億1,100万ドル)、電気機器も36.6%減(1億8,200万ドル)と減少した。

他方、輸入は276億9,800万ドル(41.6%増)と、2012年以来の増加となった。油価が2016年に比べて上昇傾向にあることから、構成比96.4%と最大の輸入品目である鉱物性燃料の輸入が、数量ベースでは微増ながらも、金額ベースでは41.6%増と大幅な増加が見られた。その他シェアは小さいが、化学製品も40.2%増(5億600万ドル)、原料別製品も70.1%増(3億4,700万ドル)と、ともに大幅な増加となった。

## ■進出日系企業は三メガバンクが出揃い94社に

2018年6月時点の進出日系企業数は94社(代理店への駐在員派遣を含む。ジェットロ調べ)となった。2017年1月に、三菱東京UFJ銀行(当時)が邦銀初となる支店の

設立認可を取得したことに加え、三井住友銀行が2018年3月に金融アドバイザー業務を行う現地法人を開設したことで、サウジアラビアに三メガバンクが出揃った。

石油化学分野では2017年4月、三菱ケミカルとサウジ基礎産業公社(SABIC)が合弁で東部のジュベイルに設立した化学品製造のサウディメタクリレート(SAMAC)が、メタクリル酸メチルモノマー及びアクリル樹脂成形材料の製造プラントを完成させ、2018年4月から本格的な生産体勢に入った。

また2017年8月、筑波大学発のベンチャー企業サイバーデザインが、地場企業アブドゥル・ラティフ・ジャミールと共同で、医療用装着型ロボットのサウジでの製造販売認証を取得した。交通事故の多発により、脊髄損傷の後遺症患者数が多いサウジアラビアでの患者の歩行機能回復治療に使用される。同年10月に8台の輸出が実現し、サウジ国内でも関心が高い医療・ヘルスケア分野において、日本のロボットが適用される初めての事例となった。

2016年10月に「ソフトバンク・ビジョン・ファンド」をPIFと共に立ち上げたソフトバンクは、2018年3月、新たにサウジアラビアが力を入れる再生可能エネルギー分野で、200ギガワットの太陽光発電プロジェクトを推進することを発表した。

2017年3月に日本とサウジアラビア両国で策定した「日・サウジ・ビジョン2030」の事業管理事務局として、2018年1月には、日本側のビジョン・オフィスがリヤドに設置された。「貿易・投資機会」、「投資・ファイナンス」、「エネルギー・産業」、「中小企業・能力開発」、「文化・スポーツ・教育」の五つの分野で具体的な事業として案件化するためのサブ・グループが始動しており、今後の民間企業の参画が呼びかけられることとなる。